

第 14 回放送番組審議機関 議事概要

■開催年月日 :平成 27 年 7 月 27 日 (月)

■開催場所 :ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社 会議室

■Dlife 放送番組審議機関審議委員 (平成 27 年 7 月 27 日 現在) :

北村みどり (三宅デザイン事務所 代表取締役社長 21_21DESIGN SIGHT 代表取締役社長)

齊藤裕人 (日本大学 芸術学部映画学科教授)

中村伊知哉 (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)

早見優 (歌手)

ピーター・バラカン (ブロードキャスター)

湯川れい子 (作詞家・音楽評論家、エッセイスト)

吉田知子 (オリコン・エンタテインメント株式会社 取締役兼『オリ★スタ』編集長)

四方田浩一 (映像メディア総合研究所 代表)

*あいうえお順、敬称略

■出席した委員 (敬称略) :

北村みどり (三宅デザイン事務所 代表取締役社長 21_21DESIGN SIGHT 代表取締役社長)

齊藤裕人 (日本大学 芸術学部映画学科教授)

中村伊知哉 (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)

早見優 (歌手)

ピーター・バラカン (ブロードキャスター)

湯川れい子 (作詞家・音楽評論家、エッセイスト)

吉田知子 (オリコン・エンタテインメント株式会社 取締役兼『オリ★スタ』編集長)

四方田浩一 (映像メディア総合研究所 代表)

■議題 :

- ・視聴者からの問い合わせ状況報告
- ・平成 27 年 6 月、7 月 番組改編についての説明
- ・「トイ・ストーリー 謎の恐竜ワールド」プロモーション『アンディがきた!』の紹介
- ・番組審議 (作品紹介とディスカッション)

*審査番組

- 「エージェント・オブ・シールド」日本語吹替版 (第一話 本編)

- “アベンジャーズ/エイジ・オブ・ウルトロン公開記念「マーベル 75 年の軌跡 コミックからカルチャーへ!” (本編)

- 「住人十色～家の数だけある 家族のカタチ～」(第一話 本編)

■議事概要：

○視聴者から寄せられた問い合わせや意見について報告された。

・当社より平成27年4月～6月に寄せられた視聴者からのご意見、ご要望内容、男女比率、年齢層について報告された。

○当社より6月と7月の特別編成と編成変更のポイントを番組宣伝映像の試写を交えながら説明された。

—6月には、女性向けの新しい2つの海外ドラマ「ゴシップ・ガール」と「私と彼とマンハッタン」の放送を開始したことが説明された。

—7月の改編として、バラエティ番組「ラジオな2人」について、番組内容の性質と、従来の23時という時間帯には、海外ドラマの視聴を希望する視聴者の要望があったことを考慮し、放送開始時間を25時に変更し、23時から海外ドラマ「CSI:科学捜査班」の放送を開始したことが説明された。

—7月より、土曜日の“サタデーナイト・ドラマ”の新作として、「エージェント・オブ・シールド」と「HELIX～黒い遺伝子～」の新シーズンの放送を開始し、同時にこの「エージェント・オブ・シールド」を中心とした、映画「アベンジャーズ/エイジ・オブ・ウルトロン」の公開を記念したマーベル番組の特別編成が組まれたことが番組宣伝映像を交えながら説明された。

また、7月には、ディズニー/ピクサーの「トイ・ストーリー」が初公開から20周年を迎える記念すべき年であることと、最新作「インサイド・ヘッド」の公開を記念し、ディズニー/ピクサーの特別編成も行ったことが、同様に番組宣伝映像を交えて説明された。

○Dlifeで日本初放送された「トイ・ストーリー 謎の恐竜ワールド」の番組視聴促進のために企画された、番組内でスマートフォンやタブレットと連動して楽しめる施策『アンディがきた!』についての説明が実演を含めて行われた。

○委員からは次のような質問、意見、感想が述べられた。

—視聴者からの問い合わせについて

「ラジオな2人」のようなバラエティ番組に対する既存の海外ドラマファンからの反応について質問があり、視聴者から寄せられた意見の内容や、調査結果から見られるそれぞれの視聴者層の特徴についての説明を行い、理解された。また、出演者の認知度が上がっていることもあり、番組の認知を高めるチャンスではないか、という意見があり参考になることになった。

—審査番組に関するもの

「エージェント・オブ・シールド」

・マーベルに関する予備知識が無くても楽しめ、且つ1話ずつでも楽しめる大変質の高いドラマであるという高評価がほぼ全員の審議員から寄せられた。

・コミックの世界観、アメリカ型のファンタジーの世界がこれだけ支持されるということは、多くの人が逃避願望を持っていて、経済的に疲弊した状況、政治不安が大きいときに、現実と直面したくないための現実逃避として支持されるのではないか？という社会背景に関する考察的意見が寄せられた。

"アベンジャーズ/エイジ・オブ・ウルトロン公開記念「マーベル75年の軌跡 コミックからカルチャーへ！」"

・ほぼ全員から、貴重な資料や映像が満載で、マーベルの歴史が良く理解でき、マーベルの作品をより楽しめるような、大変優れたドキュメンタリー番組であるという高評価が複数寄せられた。

「住人十色～家の数だけある 家族のカタチ～」

・ほぼ全員の審議員より、気楽に楽しめる良い番組である、という感想が寄せられた。

・過去に地上波のローカル局で放送された番組であるため、司会者のコメントの内容に、古さを感じる箇所が見受けられたという感想があり、これまでに放送された同様の番組に対する対応の説明がなされたと同時に今後の対応について参考とすることになった。

以上